



25 秋草流水蒔絵螺鈿棚 川之邊一朝ほか

一基

明治二十八年(一八九五) 蒔絵、螺鈿
三六・二×八〇・七×六一・六

全体を黒地とした棚で、厨子扉や棚板には流水を、厨子扉には萩とすすき、下段の引戸には撫子の花を、優れた蒔絵技法により表している。螺鈿や透かし彫りにより歌文字を散らしており、『古今和歌集』より凡河内躬恒「夏と秋とゆきかふそらのかよひぢはかたへすずしき風や吹くらむ」の歌意を表している。作者や宮内省に納められた経緯は伝えられていないが、『第四回内国勸業博覧会審査報告』所載の「蒔絵夏秋草書棚」について記載の意匠、技法に一致していること、優れた蒔絵技法などから、明治二十八年の第四回内国勸業博覧会出品作の可能性が高い。その審査報告によれば、意匠の考案は岸光景で、出品者は小池有終、蒔絵は川之邊一朝である。明治二十七年頃より岸光景や前田健次郎(香雪)、神坂雪佳など、図案を指導する立場にあった人々の間に、『古今和歌集』などの古歌に主題をとった歌絵を研究して、特に蒔絵作品の図案として指導しようとした動きが見られた。同時期の日本美術協会美術展覧会や第四回内国勸業博覧会においても、書棚や文台視箱といった伝統的な形式に歌絵の意匠が組み合わされた作品が高く評価されている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan